

いのち・くらしを守る 2021国民春闘

コロナ禍だから私たちはたたかう



「1・28怒りの総行動」大阪市役所前

新型コロナウイルス感染拡大が続いています。昨年4月7日に緊急事態宣言が出されてから10か月。私たちは世界的パンデミックとのたたかいを余儀なくされています。医療・介護の現場では人員不足の中で、国民のいのちを守るギリギリの努力が続いています。

今春闘はコロナ禍でのたたかいです。「人間らしく生きること」「人間らしく働くこと」がコロナ禍で破壊されています。

今こそ「医療を守れ!」「暮らしを守れ!」「いのちを守れ!」の声を大きくあげるときです。大阪自治労連は「住民のいのちと暮らしを守る」ために全力をあげるものです。

大阪市の権限と財源を奪う「骨抜き条例」は許さない

広域行政一元化条例

吉村府知事・松井大阪市長は、都構想否決の「民意」に逆らい、大阪市の権限と財源を大阪府に事務委託する「広域行政一元化条例」案を2月の大阪府・市両議会に提案しようとしています。

これは、副首都推進本部会議を司令塔に、大阪市の都市計画の権限と財源を大阪府が奪うものです。これにより、大阪市民は自らの都市計画を決定できなくなります。大阪市民が知らないうちに「事務委託制度」を府市一元化のために濫用することは許せません。



中之島公園で集会（1月28日）

富田林市職労 執行委員長

村上 直己さん
(契約検査課)

2020年8月に村上さんが富田林市職労の執行委員長に就任してから、半年がたちました。これまで経験したことのないコロナ禍の中で、労働組合の委員長としての心境を聞きました。

組合の存在をアピールしたい みんなの思いを、職場の声を要求に



いつも笑顔の村上委員長

用試験を勧められた結果、富田林市役所に就職することになりました。最初は固定資産税の仕事、それから電子計算課、保育課、環境衛生課、水道局など様々な職場を経験しました。税のことやコンピュータのプログラムを覚え、どの職場でも常に勉強でした。自分の言葉が役所の言葉になる、カウンターの向こうから見れば、みんな一緒。「プロとして」市民から求められていると思います。水道局の工務

課では、東日本震災で陸前高田市に給水活動に行きました。

職場の先輩に誘われて組合役員に

就職してすぐに組合に入りました。入るのが当たり前だと思っていました。初めての組合役員は本庁の職員支部の役員です。職場の先輩に誘われて。あんまり交渉には出ていなかったのですが、大変だとかはなかったです。「これは腹をくくらないとい

けないな」と思ったのは、がんばっておられた先輩の役員さんが定年退職した時です。周りを見ると、あとを継ぐのは自分しかいなかった。支部の書記長をやり、副委員長をやり、そして支部委員長になりました。

市職労の委員長になつてプレッシャーとやりがいを感じます

市職労の委員長になって思うのは、自分の発言がとても重要

だということです。プレッシャーはありますが、やりがいもあります。中央執行部の役員みんなが助けてくれるので、頼りになります。だから、自分自身も普段から、いろんな活動に参加しようと思っています。

「コロナ禍でも知恵を絞って」

コロナ禍でみんなが集まるのが難しく日常活動も不自由です。交渉人数を制限したり、書面でやりとりしたり。今までのよ

うな取り組みもできず、コロナ収束のめども立っていません。今は、春に入庁してくる新規採用者への呼びかけをどうするか、一番悩んでいます。

自分が就職したときは、熱心に活動される職場役員がおられました。今では組合役員や組合員のいない職場もあります。そんな中、昨年の秋は職場の声をすいあげて要求書ができました。そういう積み重ねで組合の存在をアピールしたいです。